

# 公 民 [ 倫理 ] ( 100 点 50 分 )

2011 年 5 月 31 日 ( 火 ) 3 限 実施  
前期中間考査  
千葉県立長生高等学校 第 3 学年 ABCD 組  
Edited by K.Kataoka

## 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 4 桁で記入してマークを忘れないこと。  
例 3 年 D 組 1 番 0401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

# 倫 理

( 解答番号 [ 1 ] ~ [ 50 ] )

第 1 問 次の文章を読み下の問い ( 問 1 ~ 問 3 ) に答えよ。( 配点 16 )

哲学や科学が生まれる以前においては，人間や世界の事物を理解しようとする要求に [ 1 ] がこたえていた。(a) ホメロスやヘシオドスの叙事詩に登場する神がみは，人間の運命を支配する超自然的な力でありながら，人間のように感情や意志をもったものとして擬人化されて，人びとに語りつがれた。

幾種かの宇宙生成神話が伝えられるうちで，もっとも規範的なのはヘシオドスの [ 2 ] で，ここでは神々も宇宙も生まれ出てくるものと構想される。最初は混沌を意味する [ 3 ] が，ついでガイア(大地)とその奥底なるタルタロスが，さらにいわばいっさいの生成の根源力としてエロスが生じた。他方ガイアはひとりでウラノス(天)を生む。大地と天とにより両性生殖が始まり，すべての神々と人間との元初となる。すなわち大地は天に添寝してクロノスを含む 6 人の男神と 6 人の女神とを生む。これがティタン神族である。ところが天は子を憎み，大地の奥処に隠して出ることを許さない。苦悶したガイアは末子クロノスに勧め，鎌で天父の男根を切断せしめた。肉片は海に落ち，まわりに泡が生じ，そのただなから愛と美の女神 [ 4 ] が生まれた。ウラノスの呪いととも天界の主権は子クロノスに移る。彼は姉レアを妻としてヘラを含む 3 人の女神と 3 男神ハデス，ポセイドン [ 5 ] を生む。彼らはいずれも (b) オリュンポス十二神 に数えられる。ところがクロノスも覇権が子によって奪われることを恐れ，次々と子どもを自分の体内に呑みこむ。だが母の計略によりひとり難をまぬがれた [ 5 ] は成長し，クロノスの腹の中から兄弟を吐き出させ，ここに父の一族ティタンたちとの戦争が開始される。[ 5 ] は苦戦の末ティタン族を天界から追放し，覇権を確立することができた。ホメロスが語る世界の 3 分割つまり [ 5 ] は天，ポセイドンが海，ハデスが下界を支配領域と決定したのはこの時のことであろう。

「哲学」という言葉は，明治初年の段階で，[ 6 ] によって，英語の「フィロソフィー philosophy」の訳語として作られた。「フィロソフィー」は，ギリシア語の「フィロソフィア philosophia」に由来し，知恵(ソフィア sophia)を愛する(フィレイン philein) という意味の言葉である。そこで [ 6 ] は，周濂溪の「士希賢(士は賢をこいねがう)」(『通書』志学)にならい，賢哲の明智を愛し希求するとの意で，はじめ「希哲学」(哲智すなわち明らかな智を希求する学)と訳し，のちに「哲学」と定めた。(『百一新論』1874)。西周は，草創期の明治政府の知的指導者の有力な一人であったから，この「哲学」という訳語はやがて文部省の採用するところとなり，以来日本で一般に用いられることになった。

問 1 文章中の空欄 [ 1 ] ~ [ 6 ] に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの ~ のうちから一つずつ選べ。

- |       |   |         |      |
|-------|---|---------|------|
| [ 1 ] | 〔 | プシュケー   | ピュシス |
|       |   | ロゴス     | ミュトス |
| [ 2 ] | 〔 | オデュッセイア | 神統記  |
|       |   | 仕事と日々   | イリアス |

[ 3 ]	[	コスモス ニュクス	アイテル カオス
[ 4 ]	[	ヘラ アテネ	アフロディテ アルテミス
[ 5 ]	[	ディオニュソス アポロン	ゼウス アレス
[ 6 ]	[	西村茂樹 福沢諭吉	森 有礼 西 周

問2 下線部(a)に関連して、ホメロスのイリアスについての記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 7 ]

アキレウスは全軍の会議の席で王アガメムノンにアポロンの怒りを鎮めるために、その神官の娘を返すよう迫るが、王は代りに彼の愛する捕虜の娘を奪う。この屈辱に怒ったアキレウスは以後の戦闘に加わることを拒み、戦局はギリシア軍に不利になるが、パトロクロスはアキレウスの武具を借りて出撃しヘクトルに討たれる。

人間が現実社会において踏み行うべき正義の道を、神話からのたとえ話や格言集をまじえつつ語る。作者は怠け者の弟ペルセスに対して、奪いあうことよりもわかちあうことの価値を、権力やよこしまな利得心に支配される獣同様の争いよりも法と正義を認めあう人間社会の秩序を貴ぶべきことをさとし、天地自然の法に従いそれとの一体調和によって成り立つ農の営みこそ、人間が真の幸福に至る道であると告げている。

トロイアを攻略した後、帰路に着いた英雄オデュッセウスがその途次漂浪を重ね、12の冒険と危機を克服して、10年の後ようやく故郷イタケー島に単身たどりつく。留守を守っているのは貞節な妻ペネロペとようやく成人した一子テレマコスであるが、近隣諸地の貴族らはペネロペと結婚し家財を乗っとうと押し掛けて彼女を苦しめる。オデュッセウスは、ペネロペが提案した弓矢競技の場で、求婚者どもの虚を衝いて彼らを一人残らず誅殺する。

オイディプスはかつてスフィンクスのなぞを解いて王となった。そして今また第2のなぞ解きに挑戦したのである。その結果、殺害犯人とはほかならぬ彼自身であること、それどころか、先王ライオスとは彼の父であり、妻イオカステが母であることを発見する。恐ろしい真実を知ってイオカステは自害するが、オイディプスは目を突いて盲目となり、知らずして己が身にかけての罪を背負って放浪の旅に出る決意をなす。

問3 下線部(b)に関して、オリュンポスの十二神として**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 8 ]

アテネ          ヘルメス          マルドゥク          アポロン

第2問 次の文章を読み、下の問い(問1～問6)に答えよ。(配点 20)

ギリシア文明に先だつエジプトやバビロニアの文明において農耕、航海、建築などの技術はすでに高度の発展を遂げていたが、技術の成立する構造・仕組みを尋ね、これを成り立たしめている (a)もっとも単純な原理から理解しようとしたのはギリシア人であった。ここに測量術は幾何学 geometria となり、占星術は天文学 astronomia となって、いろいろの学問が成立した。これは、事物をすぐに利用しようとする実用の態度ではなく、事物を事物がそれ自身でもっている形と成り立ちにおいて眺めることを楽しむ [ 9 ] の態度によって生まれることであり、ここにギリシア人の(b)ロゴス的な態度がある。

タレスは万物の「成り立ち」である自然を【A】であるとし、アナクシマンドロスは【B】、アナクシメネスは【C】とした。これらは、万物がそこから生まれ出るという意味で万物の「生まれ」なのであった。これらの人々はミレトスの人なので、ミレトス派とよばれる。

(c)ピュタゴラス派では、万物の「成り立ち」は事物を構成する形式的な原理である数に求められる。世界は相反する諸性質の間に生まれる数的な調和である。[ 10 ]は、生成し消滅する存在者をその生成し消滅する過程の全体においてとらえようとした。それゆえ、存在者を成り立たせるものは同時にその反対の非存在でもあり、世界は拮抗する相反者の間に成り立つ動的な調和としてとらえられる。これが世界の「ロゴス」である。

エレアの [ 11 ]は、これまでの哲学者のように存在を感覚において現象するものとして把握するのをやめ、感覚的な現象の背後にその根拠として不変不動な存在が理性に対して示現していることを明らかにした。これこそが存在の真実性であり、感覚的現象は虚像にすぎない。ここに、感覚に現象する生成・消滅する事物の「成り立ち」としての「自然」を求めた最初の哲学者たち、すなわち自然哲学者とよばれる人々の思索は頓挫し、哲学は新たな端緒を求める。

[ 11 ]以後、ギリシアの哲学は、[ 1 ] [ 11 ]の論理を追究し、運動の存在を否定した弁証論者(エレアのゼノン)、[ 2 ] [ 11 ]に従い、根元存在の不変性を認めたくえで、これを多元化することによって、その相互関係の変化によって自然世界の多様性を救おうとした多元論者( (d)エンペドクレス、[ 12 ]の原子論)、[ 3 ]自然学の伝統とは関係なく、ことばの機能を説得(魂の誘導)に置く弁論術の伝統に基づき、すべてのことばを人間存在に関係づけて理解し用いた [ 13 ]の三派に分かれ、低迷を続けた。

問1 文章中の空欄 [ 9 ] ~ [ 13 ]に入る最も適当なものを、次のそれぞれの ~ のうちから一つずつ選べ。

- |        |   |                    |                  |
|--------|---|--------------------|------------------|
| [ 9 ]  | [ | ドクサ<br>テオリア        | ノモス<br>プラクティカ    |
| [ 10 ] | [ | ヘラクレイトス<br>アナクサゴラス | プロティノス<br>パルメニデス |
| [ 11 ] | [ | プロクロス<br>パルメニデス    | ヘラクレイトス<br>ヘロドトス |



問6 下線部(d)に関して、エンペドクレスの思想に関する記述として最も適切なものを、次の～のうちから一つ選べ。[18]

万物のもとのものは不生・不滅・不変の分割できないものである。これは数において無限であるが、形態と位置によって互いに異なっていて、空虚(空間)のなかを運動しており、その離合集散によって万物が生成したり消滅したりする。

飛んでいる矢は、今という瞬間には一定地点にあり、次の瞬間にも次の一定地点にある。こうして飛矢は各瞬間には静止しており、静止を積み重ねても運動は出てこない。

万物のもとのものを地水火風とし、この不生不滅の四つの元素が、「愛」と「憎」によって結合したり分離したりして、世界のいろいろな状態が現出する。

万物のもとのものはそれぞれ性質が異なる種子(スペルマタ)であって、あらゆるものはこの全種類の種子を含むが、どの種子をもっとも多く含むかによって、そのものの何であるかが決まってくる



問3 下線部(b)に関して、プロタゴラスの思想についての記述として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[22]

正義とは強いものの利益に他ならない。

何も存在しない。存在しても知ることができない。知ることができたとしても人に伝えることができない。

正しいことや醜いことは自然本来にはなく、法律や習慣によって生じる。

人間は万物の尺度である。あるものについてはあるということの、あらぬものについてはあらぬということの。

問4 下線部(c)に関して、弁論術をあらわすギリシア語として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[23]

ムシケ

レトリケ

ディアレクティケ

ロギカ





問2 下線部(a)に関して「真実と思われること」や「思い込み」をあらわすギリシア語として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 26 ]

ソフィア          ドクサ          アガトス          エピステーメー

問3 空欄【 A 】に入るものとして最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。  
[ 27 ]

本当にソクラテスだけが知者であり、これまで知者と呼ばれてきた者たちは、ソクラテスの知恵の足元にもおよばないということだ

本当にソクラテスだけが知者であり、ソクラテスの知恵が後世まで語り継がれるということが、神によって予言されているということだ

本当は神だけが知者であり、人間には知恵を求める価値も必要もないということをして、人々に教えることが自分の使命であるということだ

本当は神だけが知者であり、人間のなかで最大の知者とは、彼自身のように、自分が無知であることを自覚している者であるということだ

問4 下線部(b)に関して、「善美」をあらわすギリシア語として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 28 ]

アレーティア          カロース          カロカガティア          アガトス

問4 下線部(c)に関して、「問答法」をあらわすギリシア語として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 29 ]

ロギカ          レトリケ          ピュシカ          ディアレクティケ

問5 下線部(d)に関して、ソクラテスの問答法によって「無知の自覚」を表明したのとして最も適当なものを、次の ~ の中から一つ選べ。[ 30 ]( 2003 年センター追試験 )

対話問答を通して議論を進めていくソクラテスの熱意は、称賛に値する。私は悪い人間ではないし、また私ほど嫉妬心から縁遠い人間はいないので、ソクラテスが知恵にかけて有数の人物の一人になったとしても、決して驚かないだろう。

ソクラテスという人は、いつもこうなのだ。ほとんどとるに足らないような事柄を問い返しては、相手を反駁しようとする。もし誰かが何事につけてもこの人のいうことに同意してやったなら、この人ときたら、まるで若者のように大喜びするにちがいない。

ソクラテスは自ら困難に行き詰まっては、他人も行き詰まらせてしまう。これまで大勢の人々に向かって徳について私が語ってきた話は、自分では立派な内容だと思っていた。ところが、今では徳とは何かということさえ語るができなくなった。

ソクラテスは相手に質問するばかりで、自分の方からは何一つ答えようとしなない。答えるよりも問うことの方が簡単だということをよく知っているものだから、誰かに質問されると空とぼけて、あれこれ言いつくろっては答えるのを避けるのだ。

問6 明治期日本でのソクラテスの受容に関する次の文中の[ 31 ]に入る語句として最も適切なものを、下の ~ の中から一つ選べ。

明治初期の日本の西洋思想受容は、孔子や孟子ら東洋の聖賢との対比でソクラテスを紹介する仕方が一般的であった。ソクラテスは、とりわけ「徳は知である」という根本思想ゆえに、[ 31 ]で知られる王陽明と強く結び付けて理解された。1898(明治 28)年の第 8 回文部省施行中学校師範学校高等女学校修身科教員検定試験では、「王陽明[ 31 ]の説とソクラテス[ 31 ]の説とを比較せよ」という問題が出されている。

事上磨練

知行合一

致良知

福德一致

問7 ソクラテスの主知主義の説明として最も適切なものを、次の ~ の中から一つ選べ。  
[ 32 ]

人間の認識の起源は感性や情意ではあるが、知性ないし精神の思考によって善い生き方についての認識を得ることができる。

善なる行動をとるためには、何が善であるかを知ることに加えて善なる意志が必要である。

知恵と徳と幸福は一致するため、幸せな生き方をしていると感じる時、それが善であることは自明である。

徳についての正しい知識を持てば、その正しい知識に導かれて善い生き方へと向かうことができる。



問3 下線部(b)に関して、イデアという言葉の語源となったイデイン (idein) の意味として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 38 ]

読 む            聞 く            話 す            見 る

問4 下線部(c)に関して、エロースをテーマにしたプラトンの対話篇として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 39 ]

饗 宴            ソクラテスの思い出            変身物語            自然学

問5 エロースについての記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。  
[ 40 ]

対象が無価値であるにもかかわらず愛を与え続ける営み  
個人的な倒錯した性愛にもとづく、物質的な営み  
純粹な価値ある善美を、自らに欠けるがゆえに求める営み  
本能的な獲得衝動に発する経済的な営み

問6 『国家』篇に描かれているプラトンの洞窟の比喩を説明するものとして最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 41 ]

洞窟の闇に映る影絵のように、物質的現象には実体がなく、実体がないから物質的現象であることをたとえた比喩。

洞窟の壁に映った影だけを知覚している囚人のように、人間は現象を真の实在と思い込んでいるということをとえた比喩。

洞窟の中では外界から遮断されているように、原因と結果の間には必然的な因果関係は実在しないことをたとえた比喩。

洞窟の中において自然の光が遮られているように、個人的な性格や環境に由来する偏見をとえた比喩。

問7 プラトンが『国家』の中で述べた国制に関する記述として最も適当なものを、次の  
～ のうちから一つ選べ。[ 42 ]

優秀者支配制は全体主義に陥ってしまい、正しい国制になりえない。  
少数の富者が支配する寡頭制が知を重んじる国制である。  
民主制こそが多数者の利益を実現する理想の国制である。  
民主制は多数者が少数者を打倒して成立し、平等と放縦が原理となる。

問8 魂の三部分の関係に基づいて国家のあり方を説明したプラトンの思想として最も適当なものを、次の ～ のうちから一つ選べ。[ 43 ]( 2005 年センター本試 )

一人の王の統治は、知恵を愛する王による統治であっても、つねに独裁制に陥る危険を孕んでいる。それゆえ防衛者階級も生産者階級も知恵・勇気・節制を身につけ、民主的に政治を行う共和制において正義が実現する。

知恵を愛する者が王になることも、王が知恵を愛するようになることも、いずれも現実的には難しい。知恵を愛する者が、勇気を身につけた防衛者階級と節制を身につけた生産者階級とを統治するとき、正義が実現する。

統治者階級は、知恵を身につけ、防衛者階級を支配し、防衛者階級は、勇気を身につけ、生産者階級を支配する。さらに生産者階級が防衛者階級に従い節制を身につけたとき、国家の三部分に調和が生まれ、正義が実現する。

知恵を身につけた統治者階級が、防衛者階級に対しては臆病と無謀を避け勇気を身につけるよう習慣づけ、生産者階級に対しては放縦と鈍感を避け節制を身につけるよう習慣づける。このようなときに正義が実現する。

第6問 次の文章を読み、下の問い(問1～問7)に答えよ。(配点 18)

アリストテレスはマケドニア出身。17歳でプラトンの学園にはいり、プラトンが死ぬまで20年間そこにとどまった。その後、のちの大王アレクサンドロスの家庭教師をつとめ、アテネ郊外〔44〕に学園を開設した。そこに集まった研究者は、ペリパトス派(逍遙学派)とよばれるようになった。

彼は、経験と観察を重んじる実証的な精神のもち主であり、種々の学問分野を開拓したため、(a)「万学の祖」と称されている。(b)論理学、生物学、政治学など、多くの学問分野を開拓し、後世に多大の影響を与えた。彼はプラトンの思想を受け継ぎながらも、それを独自の立場から批判し、師の理想主義とはちがって、現実主義的な思想を展開した。

アリストテレスはプラトンのイデア論を批判し、感覚でとらえられる具体的な個々の事物(個物)こそが実在であり、本質は個物に内在すると主張した。たとえば、目のまえにある現実の「この樹木」をはなれて普遍的な「樹木のイデア」があるのではなく、樹木の本質は「この樹木」のうちにある。彼は、そのように個々の事物に内在化された本質を〔45〕とよび、〔45〕と、素材にあたる質料とによって、事物のなりたちを説明しようとした。自然の世界では、諸事物は、質料のうちにも可能的にある〔45〕が一定の条件のもとで現実化するものとしてとらえられる。たとえば、ある樹木は、その種子のなかにひそんでいた〔45〕が、水や養分などとむすびついてしだいに(c)現実化したものである。このようにアリストテレスは、事物を、〔45〕が現実化していく過程のなかで完成されるものとしてとらえた。

上の例で、樹木の〔45〕は実現されるべき〔46〕とも考えられる。アリストテレスは、自然の世界には〔46〕があると考え、自然全体はさまざまな〔46〕が関連しながら階層をなす形で成立しているとしてとらえた。この〔46〕論的自然観はのちに中世キリスト教神学に取り入れられ、近代科学が成立して機械論的自然観が一般に認められるようになるまで、ヨーロッパの支配的な自然観となった。

問1 文章中の空欄〔44〕～〔46〕に入る最も適当なものを、次のそれぞれの～のうちから一つずつ選べ。

- |      |   |        |        |
|------|---|--------|--------|
| 〔44〕 | 〔 | アクロポリス | デルフォイ  |
|      |   | アカデメイア | リュケイオン |
| 〔45〕 | 〔 | エイドス   | デュナミス  |
|      |   | エネルゲイア | ヒュレー   |
| 〔46〕 | 〔 | 結果     | 目的     |
|      |   | 原因     | 因果     |

問2 下線部(a)に関して、アリストテレスがテオリア的学問として重視したものとして最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。〔47〕

自然学                  政治学                  論理学                  詩学

問3 下線部(b)に関して、アリストテレスの論理学、三段論法とは二つの前提が真であれば必然的に結論が真となる形式の推論であるが、推論の真偽ではなく、推論の形式として間違っているものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 48 ]

- { [大前提] すべての動物は死ぬ。
- { [小前提] すべての犬は動物である。
- { [結論] すべての犬は死ぬ。
  
- { [大前提] すべての音楽家は芸術を愛するものである。
- { [小前提] すべての作曲家は音楽家である。
- { [結論] すべての作曲家は芸術を愛するものである。
  
- { [大前提] すべての人間は動物である。
- { [小前提] すべての人間はほ乳類である。
- { [結論] すべてのほ乳類は動物である。
  
- { [大前提] すべての嵐のメンバーはアイドルである。
- { [小前提] 東山紀之は嵐のメンバーである。
- { [結論] 東山紀之はアイドルである。

問4 下線部(c)に関して、形相の実現したものとして最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 49 ]

作用因                  現実態                  可能態                  質料因

問5 次のアリストテレスの文が書かれている著作名として最も適当なものを、下の ~ のうちから一つ選べ。[ 50 ]

諸学のうちで最も王者的であり、いずれの隷属的な学よりもいっそう著しく王者的であるのは、おのおのの物事が何のためになさるべきかを知っているところの学である。そしてこの目的は、そのおのおのにおいてはそれぞれの善であり、全般的には自然全体における最高善である。さて、上述のすべてからして我々の求めているもの（知恵）の名前は、まさにこの同じ学に与えられる。すなわちそれは、第一の原理や原因を研究する理論的な学であらねばならない、というのは、善と目的というのも原因の一種だからである。

政治学                  靈魂論                  形而上学                  ニコマコス倫理学

これで問題は終わりです。